

3年間ありがとうございました！

隈庄小学校に赴任して3年が過ぎました。多くの児童や保護者の皆様と出会えたことを大変うれしく思っています。授業参観や運動会には多くの保護者の皆さまが来校いただき子どもたちの様子を温かいまなざしで参観、応援されている光景は心温まるおもいでした。6歳で入学して12歳で卒業するこの期間、子どもたちにとって親や先生は人生の中でかけがえのない存在であると思います。この時期に接して愛情を注ぐことは、子どもたちの愛情の受け入れタンクを満タンにしやすい時期だと思います。一緒にいて話しかけることや帰ってきたら「おかえり」といった言葉かけだけでも満たされていきます。私は1年生の時、母親と虫歯の治療に行き、帰りのバスがないことで長い距離を一緒に手を繋いで帰ったことや父親と北風が吹く中、何時間も麦ふみを行ったことなどを憶えていて、何気ない日常から愛情を感じ取っていたのかもしれません。小学校の頃は、ご飯と卵、ハウレンソウがあればごちそうだったと感じていました。母が忙しい中に作ってくれた料理が楽しみでした。日々の生活の中に子どもたちの成長や家族の愛は見て取ることができます。家族みんなが幸せでいられる未来を築いてほしいと思います。

剣道と私 ⑧

監督として子どもたちに常日頃から「試合には勝ちなさい」と言っていました。大人になると私自身が試合する機会が少なくなり、試合の前の緊張感や団体戦での責任感やチームワークなどを感じるものが薄れていました。「これではいけない」試合に出て緊張感や責任感など感覚を呼び戻し指導に充てる必要だと思いました。

1月23日に行われていた荒尾の「段別選手権剣道大会」は個人戦の試合です。中学生も初段・二段の部に参加します。当時五段だった私は、試合に出場することを決意しました。子どもたちは初段・二段の部に出場します。午前中で試合に負けた子どもたちには、「急いで帰って期末テストの勉強をしっかりとしなさい」といい、帰らせました。勿論、私が大会に出るなど伝えていませんでした。

私の試合は午後から始まったので、子どもたちはだれ一人見ていません。準決勝で敗退しました。「子どもたちには勝たなければならないと言いながら、優勝することはできなかった。申し訳ない。ただ試合前や試合後の感覚は、体感することができたので、これからの子どもたちの指導にも生かせる」と反省しながらも有意義な大会出場となりました。

次の年も同じように、この大会に子どもたちも参加しました。お昼ごろに、子どもたちを集めて今年も「試合に負けた子どもたちは、急いで帰って期末テストの勉強をしっかりとしなさい」と話していると、そばで聞いていた保護者会長さんが「テストも大切だが、今日これから先生が試合をします。先生の試合をみんなで応援しなさい」と発言されました。私はうれしかったのですが「子どもたちに自分の試合を見せることになる。常日頃から“負けるな”と言っているから試合に絶対に勝たなくてはならない。負けたらどうしよう・・・」という不安が募ったことを憶えています。子どもたちは私が1試合1試合するたびに近くで、正座して拍手して応援してくれました。準決勝で延長の末、力つき判定で敗れてしまいました。子どもたちに何と言っているのか、「負けてしまって済まない」という思いで子どもたちと向き合いました。

その後、期末テストが終わって部活動が再開する日、子どもたちは放課後、すぐに武道場に集まり、声を大きく出して、準備体操をしていました。「いつもより気合が入っているな。」と思い、武道場に入りました。何かが違うと感じましたが、子どもたちに聞いたりしませんでした。のちに、保護者の皆さんから聞いた話ですが、「先生が試合を見せてくれたことによって、子どもたちも保護者も先生の剣道に対する気持ちが伝わってきて、それがうれしかった」と話されました。私は試合に負けてしまったことを後悔していたのですが、子どもたちや保護者は何試合も真剣に勝負している私の姿から子どもたちも真剣に試合することの大切さを学んだという事を聞きました。

その年、子どもたちはなかなか勝てなかった、ライバルチームに勝つことができました。

(ご拝読、ありがとうございました。)